

水道施設の耐震化及び整備について（令和8年度から12年度）

1. 基幹管路の耐震化について

（1）基幹管路及び支管管路の布設状況

井戸から浄水場へ送る導水管と、配水池から各家庭等へ水を供給する配水管のうち特に重要であると位置付けた管路を基幹管路といい、その他の配水管は支管管路としています。

【管路の延長】

全管路 213km	基幹管路 33km （口径φ200mm～φ600mmの配水管と導水管）
	支管管路180km （口径φ50mm～φ150mmの配水管）

（2）老朽化の状況

水道管路の法定耐用年数は40年とされ、その年数を超えた古い管の割合が老朽化率となります。市営水道は、法定耐用年数を超過した老朽管の割合は低い状況です。

【老朽管の割合】

	市営水道（R6末）	全国平均	千葉県平均
全管路	5.3%	23.6%（R4末）	31.5%（R5末）

（3）耐震化の状況

市営水道は、基幹管路の耐震化が進んでいない状況である。

【耐震適合管の割合】

事業体	市営水道（R6末）	全国平均	千葉県平均
全管路	44.6%	27.0%（R3末）	28.1%（R3末）
基幹管路	39.5%	42.3%（R4末）	62.3%（R4末）

（4）基幹管路耐震化計画

市営水道では、災害に強い水道施設を構築していくために、基幹管路33kmのうち、小金地区の浄・配水場を結ぶ基幹管路及び災害時に重要拠点となる避難所や避難場所、緊急輸送道路等を重点に整備し、令和12年度の基幹管路の耐震適合管率を48.6%とします。

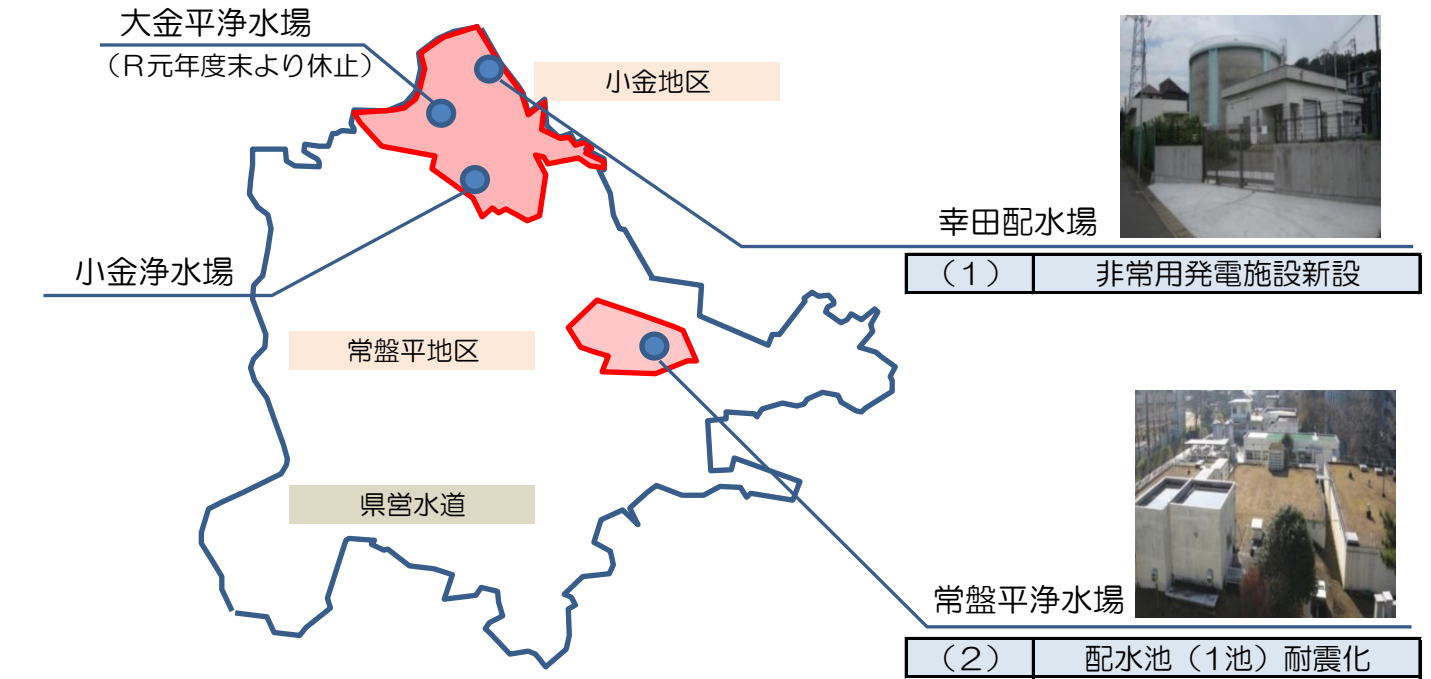
基幹管路耐震化計画

	令和4年度	令和6年度末（現状）	令和12年度（計画）
耐震適合率（市営水道）	36.4%	39.5%	48.6%
全国平均（R4末）	42.3%		

※耐震適合率＝耐震適合性のある管路延長÷管路延長

2. 浄配水場施設の耐震化及び整備について

幸田配水場に非常用発電施設の新設、常盤平浄水場の配水池（1池）の耐震化を計画しています。



（1）幸田配水場に非常用発電設備を整備【令和8年度～9年度】

幸田配水場に非常用発電施設を新設し、小金地区の停電対応力を強化します。

【非常用発電施設の状況及び計画】

		現 状		計 画	
		非常用発電施設	稼働時間	非常用発電施設	稼働時間
小 金 地 区	小金浄水場	有り	16.5h	有り	16.5h
	幸田配水場	無し	—	有り	72h
	地区計		16.5h		72h
常盤平地区	常盤平浄水場	有り	24h	有り	24h

（朝夕の配水量が増加する時間帯は幸田配水場と小金浄水場が稼働し、その他の時間は幸田配水場のみの稼働することで72時間の停電対応が可能となります。）

（2）常盤平浄水場の配水池を耐震化【令和10年度～12年度】

常盤平浄水場の4つの配水池は、全て耐震基準を満たしておらず、令和9年度末には3つの配水池が法定耐用年数の60年を超過するため、1号、2号配水池を廃止し、3号配水池を更新します。

【常盤平浄水場の配水池の現状と計画】

浄配水場名	施 設 名	経過年数	配水池容量	耐震性能	計画
常盤平浄水場	1号配水池	66年	1,217m ³	耐震性不足	廃止
	2号配水池	62年	1,344m ³	耐震性不足	廃止
	3号配水池	57年	1,214m ³	耐震性不足	更新
	4号配水池	48年	2,575m ³	耐震性不足	
計			6,350m ³		